

事業計画書

事業名		ツツジ山再生プロジェクト
団 体	名称	ツツジ山再生プロジェクト
	住所	倉敷市福島 200-55
	遂行責任者	竹井 皓三

1 団体の目的

* 定款，規約，会則等に定めている目的を，そのまま転記してください。

倉敷音頭にも唄われた中庄地区周辺の帯江銅山跡地のツツジ山を復活させる活動を通して、市民の交流を活性化する。

2 事業の分野

* 次のいずれかが該当する分野に☑をしてください（複数選択可）。

保健，医療又は福祉の増進 ☑社会教育の推進 ☑まちづくりの推進
 ☑観光の振興 農山漁村又は中山間地域の振興 ☑学術，文化，芸術又はスポーツの振興
 ☑環境の保全 災害救援 地域安全 人権の擁護又は平和の推進 国際協力
 男女共同参画社会の形成の促進 ☑子どもの健全育成 情報化社会の発展
 科学技術及び学術の推進 経済活動の活性化 職業能力の開発及び雇用機会の創出
 消費者保護 団体の運営又は活動に関する連絡，助言又は援助

3 現状と課題

(1) 地域の状況や市民ニーズ

倉敷市中心市街地近郊は、急速に都市化が進み地域コミュニティが失われつつあり、様々な課題が生まれてきている。

この様な状況の中で「ツツジ山」の復活は地域の人々に楽しく取り組みやすい目標となる。

老若男女にかかわらず手軽に取り組み、作業を通じた人と人のつながりが期待できる。

将来的には倉敷市の観光資源になり経済の活性化につながる、との背景の理解。

(2) 本事業で取り組む地域課題

本プロジェクトの可能性を少人数で確かめてきたが、5年を経過して、鉾山跡からツツジの採種と苗木育成に成功し、かつての鉾山跡に建つ倉敷自動車学校を始め、中庄小学校にも鉢を贈呈、熊野神社では50本近く育てており各場所約50%の植栽率となり、継続実施により、今後、数年後には開花、移植が推進できると見込まれる。

また、28年度7月のツツジ山写真コンテストも予想以上の出品があり、10月の講演会にも多数の地元の方々の参加をいただき、いろいろな活動についてもラジオや新聞にも紹介されこの事業の関心が高まった。

4 目的と概要

(1) 事業の目的

今年度は、苗木の育成に力を注ぎ、同時に中庄周辺の様々な場所への植栽（今年度は自然に帰す移植の場所選定の予定）を増やし、苗木の総数を増やす活動が大いに広がると期待している。

(2) 事業の概要

- (1) ツツジの苗木の育成(年 2,000 本/30 名以上)、植栽(年 400 本)を目標。
- (2) 毎年、春夏に写真撮影会及び展示会を開催、秋に講演会を実施。
- (3) ツツジの植栽活動を通じて、地域の自然とのふれあいを高め、環境美化に貢献する。
- (4) 植栽の範囲を「旧帯江鉾山」付近の民家や商店、町内会、企業などにももっと広げて行く。

5 受益者と効果

(1) 事業の受益者

中庄地区を中心に旧帯江銅山を取り囲む一体（庄、福島、菅生、帯江、豊洲等）の人達や倉敷市民を勇気づける。

(2) 事業の実施に期待する効果

実施する各種事業に多数の方々が集結し、ツツジの苗木育成、周辺地域の美化、更に環境整備等、「住みよいまちづくり」にも貢献する。
また将来には美観地区、鷲羽山に続く倉敷のツツジ山観光資源として、帯江銅山跡と共に地域への愛着や、仲間作り意識の向上にも役立つ。

6 団体の能力

(1) 団体が持つ能力

- ・地域の役員や元公務員等の参加で、従来から地域の人との交流がある。
- ・各企業でデザイン、広報、営業の業務実績があるメンバーが参加している。
- ・植物の生態や植栽の技術を持っているメンバーが参加している。
- ・小学校などの児童との交流等の取り組みがある。
- ・活動を通して地元産学関連団体や若い人たちの協力が得られている。

(2) 能力の活用

* 課題解決に向けて、団体の能力がどのように役立ちますか。

- ・この活動を通して、見知らぬ人との交流の輪が広がり、植物の生態や植栽の技術の交流が進み、新たなコミュニティの動きが生まれ始めている。
- ・小学校などの児童の取り組みにより、若い人たちの協力と新しい視点での地域のまなざしも変化が表れている。

7 事業内容とスケジュール

(1) 事業の具体的な内容

1、ツツジの種採取(12月～1月)	旧帯江銅山跡地	参加・合計 50 名以上
2、種撒き・栽培講習会(4月～7月・10月～3月)	倉敷北公民館、他	参加・毎回 20 名以上
3、第 4 回写真コンテスト(一般)・ポスター(児童)(4～5月)及び展示会	倉敷北公民館、市役所他、各事業所等	参加・50 点以上
4、先進地域(玉野深山公園、天目山・弥高山)の研修会見学会実施	深山公園・天目山・弥高山等の訪問、	参加・会員 10 名以上
5、第 4 回講演会(ツツジや帯江銅山関係について)(10月/11月)	倉敷北公民館大集会室及びフィールドワーク	参加・50 名以上
6、ツツジ種の配布推進(通年)	会員の周辺地域から(合計 20 名以上)	年間・2,000 本以上
7、苗木の配布と植栽相談(9月～11月)	小学校・中学校・幼稚園・神社・町内・公民館・各企業等	参加・各箇所 50 本以上
8、広報の推進(各行事実施期間)	報道機関(TV・ラジオ・新聞・広報誌)との協力や SNS、ブログ、ホームページ作成により活動の紹介や案内を実施。 市内各箇所に当会の活動を紹介するチラシの作製・配布の実施。	
9、ツツジ散策道整備協議会(仮称)を設立する	ツツジの散策道の整備の為に協議会を設立し活動する。 (中庄自動車学校・熊野神社・岡山ゴルフ倶楽部等)	
以上の事業について、月 1 回(第 3 金曜日)の定例会で打ち合わせ 推進していく		

(2) 事業のスケジュール

12～1月	ツツジの種、採種
4～7月	播種・栽培講習会
4～5月	写真コンテスト・写生会及び展示会
10～11月	講演会
9～10月	苗木の配布と植栽相談
10～3月	播種・栽培講習会

8 目標

内容	現状	目標値
(1)ツツジの苗木の植栽	(1)50 本/年	(1)400 本/年
(2)写真展・講演会実施	(2)1 回/年	(2)2 回/年
(3)ツツジ 散策道整備協議会	(3)未開催	(3)協賛/4 法人以上

9 受益者負担 団体の財源確保のため、可能な限り参加費や受講料などを徴収してください。

徴収する（見込み： 資料・お茶代として、会費として、1 回あたり 500 円 ）

徴収しない（理由： _____ ）

10 事業の見通し

* 2 年後、3 年後といった将来、事業をどのように展開させますか。

本プロジェクトの可能性を少人数で確かめてきたが、
 いろいろな活動についても新聞にも紹介されこの事業の関心が高まった。
 今後は、苗木の育成に力を注ぎ、同時に中庄周辺の様々な場所への
 植栽が大いに広がると期待している。
 また、今年度はツツジ散策道の整備をスタートしたい。

11 他団体との協力

* 他団体と協力して事業を実施するときは、その団体名や役割を記入してください。

「中庄の歴史を語り継ぐ会」及び、町内各種団体と連携していきたい。
 中庄小学校・倉敷自動車学校・熊野神社などとはすでに連携を始めているが、
 今後は、特に「旧帯江鉾山」付近の民家や商店、町内会、企業などにも
 もっと範囲を広げて行きたい。

12 行政との協働 自主事業コースの団体は記入不要です。

* 協働する市担当部署の名称、役割、協議をした日及び内容を記入してください。

収支予算書

1 収入の部

科目	内訳	金額(円) ₂	積算根拠
受益者負担	参加費	25,000	500円×計50人
会費からの繰入		20,000	1,000円×20人
その他	寄付	130,000	団体・企業から
市補助金		270,000	300,000×0.9=270,000
収入合計		445,000	(支出合計と一致)

2 支出の部

科目	内訳	金額(円) ₂	積算根拠
人件費(会員) ₁		0	
交通費(会員) ₁	会員交通費等	5,000	
人件費(アルバイト等)		0	
謝金(講師等)	審査員、講師等	60,000	コンテスト、講演会 6回×10,000
旅費交通費(講師等)	審査員、講師等	40,000	旅費(近)5回×3,000、(遠)5回×5,000
消耗品費		100,000	鉢・培養土・肥料、ラベル等
印刷製本費		60,000	会議資料・会報・チラシ・レジメ印刷
通信運搬費		10,000	郵送費
保険料		0	
使用料・賃借料		5,000	例会会場費
外注費・委託費		20,000	チラシデザイン委託等
対象経費計		300,000	
食糧費		40,000	講師お茶・弁当代他
人件費		50,000	ツツジ散策道整備協議会設立費
その他		55,000	ツツジ散策道の整備費(案内板等)
対象外経費計		145,000	
支出合計		445,000	(収入合計と一致)

1: 会員に支払う人件費と交通費の合算額は、対象経費計の1割を上限とする。

2: 金額欄は切り上げて千円単位で記入してください。